

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：令和2年7月15日(水)
(2020年)

地域企業紹介 67

有限会社河野製作所

人との縁を大切に、 お客様から信頼される企業へ

超精密部品切削加工を主業とする有限会社河野製作所(本社:相模原市南区麻溝台5-17-4)の河野崇社長を座間工場に訪ねました。

同社は1981年(昭和56年)4月、切削加工を営む個人事業者として、河野崇社長の父茂孝氏(現会長)によって創業された。茂孝氏一人・工作機械1台・取引先数社から始まった同社は、2004年に法人化、その後のリーマンショックや東日本大震災を乗り越えて、現在、導入設備20台・従業員数17名・取引先数160社余りを有するまでに成長した。

主に半導体関連や自動車・防衛・医療関連部品の切削加工業者として、ステンレス・アルミ・鉄・チタン・プラスチック・ジュラコン・特殊樹脂・アクリルなど金属材料から非金属材料まで幅広い加工実績を有する。加工種別にもよるが、加工できる大きさは、径はφ0.5～φ50、長さは250mm。精度は0.005mm単位での加工が可能。寸法公差も旋盤加工であれば内外径0.01mm、同芯度0.01mmまで十分対応できる。品質管理についても工程毎に抜き取り検査を行い、完成後のバリなどを担当者の手で一つ一つ丁寧に確認した上、最新の検査機でチェックすることで、不良率の低下や不良品の流失防止に徹している。切削加工技術は、現在及び将来に向かって高速・高精度切削・精密・超精密切削、複雑形状・自由曲面加工、難削材の高効率切削、加工の知能化、加工プロセスの複合化へと進化している。河野社長は、そうした状況を的確に捉え、安定成長を実現させるための事業展開を目指している。その中で、自身の経営指針として“設備と人と売上”のバランスを重要視しているという。つまり、この3要素がバランスよく正三角形になるとき、安定成長を目指した経営を進めることができるのだと河野社長は語る。

そんな河野社長は世田谷区大蔵の出身。製造会社に勤務する父茂孝氏と国立大蔵病院の看護師として働く母上の長男として生まれる。1981年、母上が国立相模原病院へ異動となった際、父茂孝氏が、母上の負担を少しでも軽減させたいという想いで勤務会社を退職、病院近くの相模原市相模台へ転居し創業に至った。河野社長が若干6歳の時である。共働きで忙しい両親のもと鍵っ子だった崇少年、毎朝家の鍵を閉めて小学校に通ったことを覚えているそうだ。そんな崇少年は小学校から高等学校・社会人を通して野球に熱中、内野手として小中高いづれもキャプテンを任された。特に県立相武台高校では県大会でベスト8まで進んだ。ちなみにプロ野球選手になった一学年先輩の

代表取締役社長：河野 崇 (こうの たかし)

所在地：本 社 神奈川県相模原市南区麻溝台 5-17-4
座間工場 神奈川県座間市小松原 1-11-19

従業員数：17 名

資本金：1,200 万円

事業内容：特殊金属製・樹脂製
・複合小型部品の超精密切削加工・微細加工

URL：<https://www.kouno-ss.com/>

菊地原氏(現広島コーチ)と共に厳しい練習に励んだことや、3年生のときに同学年のメンバーと共に最後の夏に挑み県大会ベスト16まで勝ち進んだことは、懐かしい思い出になっているという。高校卒業後、大手上場非鉄金属メーカーに就職。同期入社100人と共に寮生活に入り、先輩指導員のもと何事も連帯責任だとして徹底的に鍛えられた。3か月間の指導期間を経て、主要部署である通信ケーブル工場に配属され、電線や光ファイバーなど通信インフラ事業に携わる。3年半ほどで退職することになるが、福利厚生面や各種管理面など大手企業ならではの制度を学ぶことが出来て大変有意義だったそうだ。

その後、他社での勤務経験を経て、2000年に河野製作所に入社する。父と弟と自分の3人で、昼夜を問わず一生懸命働いた。その後、2004年の法人化とともに代表取締役就任。そんな河野社長が経営者として大事にしていることは「人との縁」だ。経営者として、薫をもすがら思いで青年工業経営研究会(略称:青工研)に入会、多くの人と出会い、先輩方や仲間の助言でたくさん救われた。本音で言い合える関係が青工研の魅力であり、切磋琢磨

することでお互いの成長につながったのだと。以後、会社の業績は好転していく。また、昔から父茂孝さんには「感謝」すること、母上からは「謙虚」であることの大切さを教えられてきた。高い技術力はもちろん、こうした精神が企業文化となって、自然と社内に浸透していることが、お客様からの信頼につながっているのだろう。

人との「縁」を大事にする河野社長は地域産業振興活動にも精力的に取り組んでいる。相模原市が中心となって産学官金連携を展開する首都圏南西地域産業活性化フォーラム(略称:南西フォーラム)の副委員長として力を注ぐ。今年度からは運営委員長に就任。前委員長の吉田英訓氏(株式会社ミヨシ・ロジスティクス 代表取締役社長)より受け継ぎ、新たなビジネスの創出・地域経済活性化に少しでも貢献できればと意欲を燃やす。

昨今、お客様からの要望は高まる一方だ。その過程で、高品質・多品種小ロット・短納期にも柔軟に対応してきてくれた社員が、当社の最大の強みだと河野社長。来年、創業40周年を迎える河野製作所は、同社の最大の強みである社員の皆さんと共に「お客様に信頼される企業になるために」これからも常に走り続けていく!

AI/IoTの先端技術を開発力で具現化し、理想と現実のギャップを埋める

株式会社グリーンノート

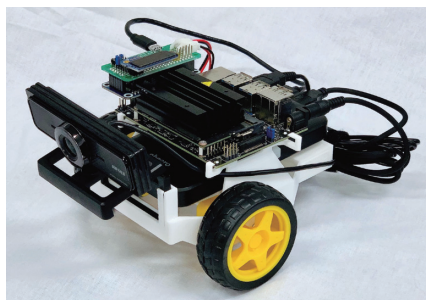
AI/IoTに関する技術・製品開発やコンサルティング、教育事業などを展開する株式会社グリーンノートの立石彰社長にお話を伺いました。

大手化学品メーカーや米国の電子部品メーカーなどを経て、国内の大手精密機械メーカーで材料開発やセンサデータ収集・解析、行動分析システム開発などに従事してきた立石社長。その後、2018年8月に株式会社グリーンノートを設立。SICには創業時より入居しています。

創業当初は、システム全体を鳥瞰的に捉える総合力を強みに、IoT関連機器・サービスの開発に取り組む企業への技術コンサルティングや受託開発・製作、IoTを活用した生産性向上支援などを中心に取り組んできました。

2019年10月には、初めての自社製品となるAI学習キット「オリジナルJetBot」を開発・発売しました。キー部品の自社設計や生産パートナーとの緊密な協業により、組み立て簡単なキットを安価で提供することに成功しています。また、可動式のUSBカメラを採用することで画像の向きや画角の違いによるAIの性能変化を実体験することができるなど、AIを業務に応用するための勘どころを学べる工夫も随所に盛り込まれて

います。既にエンジニア向けの講習会や大学、専門学校等で教材として利用されており、次世代を担う若手エンジニアの育成に成果を上げ始めています。



AI学習キット「オリジナルJetBot」

現在は、新型コロナウイルスの影響により浮き彫りになった社会課題の解決に向け、新たな技術・製品開発に取り組んでいます。例えば、テレワークを導入した企業の現場では、実は電話応対や郵便物受け取りに苦労しているという例も少なくありません。そこで同社では、自社用に開発した電話受付・転送システムや、郵便物の到着を知らせるツールの外販に向けた準備を進めており、本記事発行までには実証実験を開始する計画です。また、クラウドAIを活用した顔認識のデモシステムを構築しており、マスク越しでの認識性能も高いことから、サーモグラフィや出退勤管理など既存シス

テムとの連携による価値創造を目指した活動を始めています。

そのほか、相模原市「南西フォーラム」におけるAIチャレンジ講座での講演や、さがみはらIoT研究会への参加などを通して、地域での企業間連携にも積極的に取り組んでいます。また、コロナ禍以前から取り組んでいる全国各地での技術者育成活動も再開が近づき、その成果を相模原でも還元できないかと智恵を絞っているところです。

グリーンノート社では、これからも先端技術をいち早く取り込む「技術力」と、アイデアを形にする「開発力」を武器に、現場が抱える理想と現実のギャップを埋める役割を果たしていきます。



AIチャレンジ講座での講演

株式会社グリーンノート
SIC-1 Startup Lab. 314 号室
URL: <https://www.i-gnote.com/>

伝える努力をしてみよう

今回は「プレスリリース(ニュースリリース)」の実践編です。よく「どう書いたらよいのか分からない」「難しいのでは」とのご質問を受けることがあります。そんなときは大手企業のプレスリリースを参考にしてみるとよいと思います。どんな話題で、どんな風に書いているのかがよく分かります。大手企業のプレスリリースは誰でも簡単に入手できます。例えばNECならコーポレートサイトにプレスリリースの項目があります。日産自動車やソニーなども同じです。中には「報道資料」などの項目に掲載している企業もありますので探してみましょう。また、日経プレスリリースなど、大手マスコミのホームページでも、大手企業が発表したものをそのまま掲載している場合がありますので参考になるかと思います。

では実際にプレスリリースを書いてみましょう。まず大切なのが、頭の中を整理することからです。「あれもこれも」は禁物です。確かに、より多くの情報を伝えたい、との気持ちは分かりますが、逆に読み手を混乱させることもあります。伝えたいポイントは絶対に絞るべきで、言い換えれば「何がニュースなのか」です。以前もお伝えしましたが、自社の宣伝色が強いものは禁物です。あくまで「ニュース」ですので、客観的な視点に立って考えてみてください。

ポイントが決まったら次に「見出し」と「リード」の作成です。新聞記事もそうですが、読んでもらえるかそうでないかは「見出し」で決まるといっても過言ではありません。読み手側である報道機関は常に取材や締め切りに追われています。その中で1日にたくさんの企業が発表するプレスリリースにも目を通さなければなりません。興味が湧く見出しでなければスルーされてしまうことが多々あるのです。

この作業にできるだけ知恵を絞って下さい。

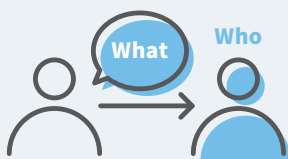
次に「リード」の作成です。リードとは記事内容を要約した数行〜十数行の文章を指します。書くときには必ず「5W1H(誰が、いつ、どこで、何を、どのようにして、なぜ)」を心掛けましょう。経済記事、企業ニュースの場合は、「ハウマッチ」も忘れずに盛り込みましょう。例えば、新製品のプレスリリースの場合、価格や販売見込みを指します。

最後にメインとなる本文を書いていきます。ここでもルールがあります。専門用語はなるべく盛り込まないことです。読み手側(記者)は技術者でもなければ業界の人間でもありません。難解な専門用語が並べると結局のところ読んでもらえないことがあります(業界紙は別ですが...)。文章は短くシンプルにするのも基本です。記事は短文の集合体です。その方が分かりやすく読め、読んでいて疲れません。さらに、最も大切なのはプレスリリースの文体は新聞記事と同じ「逆三角形」が基本ということです。学校で習ってきた文章の書き方は「起」「承」「転」「結」で構成されますが、プレスリリースの場合はその逆で、結論や大切なことから先に書くのです。

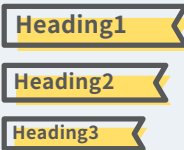
写真も忘れずに配置して下さい。イメージ図でも構いません。写真などが無いと、読んでいても理解が深まりません。プレスリリースの内容を、読み手側にいかに理解してもらうかの努力こそ大切です。プレスリリースは最終的にA4で2枚以内に収めるのもポイントです。先にお伝えした通り、読み手側の負担を減らすのも重要だからです。以上、具体的に説明しましたが、まずは明日からでも実際に書いてみることをオススメします。

チェックポイント

① 誰に、何を伝えたいのか



② 見出しは何か



③ 5W1Hは入っているか



キッチン炎上

今回は昨今のコロナウイルス禍で注目されているテイクアウト、SIC-1で移動販売を行っている「キッチン炎上」をご紹介します。

ランチタイムに鉄板焼きで仕上げるお弁当の移動販売をしている店主の磯部さん。20年間居酒屋を営んできましたが、現場で働きたいという想いから、お客様との距離が近いキッチンカーで営業を始めたそうです。お弁当は居酒屋メニューからインスピレーションを得た定番3種と日替わり1種の全4種で、「炙りメ鯖丼」と「豚の焼き角煮丼」が人気です。

燃え上がる炎の中から生み出される珠玉の丼ものは、SICの胃袋をしっかりと掴んでいます。ごちそうさまでした! (大谷)

神奈川県相模原市緑区西橋本5-4-21 SIC-1 Startup Lab. 正面入り口横
営業日時 毎週月曜日 11:30~13:30 (祝日の場合休み)
※地域の皆様もお買い求めいただけます。



「ニュービジネスリーダー」育成セミナー

SIC
経営塾9月開講「SIC経営塾」
受講者募集！！

開催期間：令和2年9月5日～令和3年3月13日（全10回）

会場：さがみはら産業創造センター大会議室 他

募集人数：12名

対象：経営者または経営幹部

受講料：198,000円（税込）

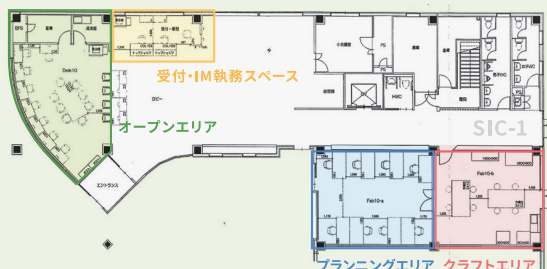
問い合わせ：(株)さがみはら産業創造センター（担当：事業創造部 中村・片山）

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、
今年のSIC経営塾は9月に開講することになりました。

※講義やディスカッションでは、感染防止対策を講じて実施します。

シェアするオフィス&ラボ **EN-Garage始動！**

▶ SICのシェアオフィスDesk10と、
ものづくり環境を整えたシェアラボFab10が本格稼働しました！



4月にSIC-1の3階・オフィスから1階・エントランスフロア内に移転・リニューアルしたDesk10。席も20席に倍増し、大テーブルやハイカウンターも揃えるなど、より一層充実した執務環境に整備しました。もちろん、これまでどおりフリーアドレスタイプのデスクやインターネット（Wi-Fi）、デジタル複合機もご利用いただけます。

また、今回新たにオープンしたFab10では、ものづくり作業に適した工房スペース「クラフトエリア」と、設計業務や資料作成などの集中作業

に適した執務スペース「ブランニングエリア」を整備しました。特に、クラフトエリアは、塗装コンクリートの床で、室内には作業台も設置しており、工具などを持ち込んだ軽作業にご利用いただけます。

Desk10のリニューアルとFab10のオープンには、「“スタートアップ企業”と“入居企業や地域企業”の交流促進」の狙いがあります。様々な出会いやつながりを求め、2つの施設の統合プロジェクト名を“EN-Garage”としました。ガレージを拠点に、利用する方々の様々な“縁（EN）”を紡いでいける場所として、これから様々な“仕掛け”を盛り込んでいきます。



Desk10 オープンエリア



広々とした雰囲気の大テーブル



間伐材を使用したハイカウンター



Fab10 クラフトエリア



Fab10 ブランニングエリア

▶ 地域企業様もご利用できます！

地域企業様の月額料金は、Desk10・Fab10ともに5,500円（税込）です。Desk10はテレワークオフィスなど、Fab10はものづくり連携などでのご利用を想定しています。利用条件など、詳細は担当スタッフ（事業創造部 片山）までお問い合わせください。

2020.07

SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

9月5日(土) SIC経営塾 開講(塾生募集中!!)

9月26日(土) SIC職場リーダー養成塾 開講(塾生募集中!!)

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によって、日程や会場等を変更する場合があります。

knock!
knock!

入居企業を募集しています。

SIC空室情報 (令和2年7月15日 現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部 屋	空 室 数	賃料/月額 (共益費込・消費税抜き)
SIC-1 Startup Lab.	○セミラボA (47.3㎡)	2 140,600円
SIC-2 Creation Lab.	○オフィス (50.2㎡)	2 172,700円
SIC-2 R&D Lab.	○マルチラボ (63.18㎡)	1 ※ 250,200円
SIC-3 Innovation Lab.	空室はありません	-

※ 令和2年10月から入居可能

編集後記

いつも穏やかで笑顔を絶やさない河野製作所の河野社長。取材の際も、従業員の方々と気さくに会話されている姿が印象的でした。そんな河野社長曰く、「自分は寄り添い型の経営者」。マネジメントやリーダーシップには、様々なタイプがあると言われています。皆さまは、ご自身をどのようなタイプの経営者もしくはリーダーだと思われますか？



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>